

# 帰納的聖書の読み方について

帰納的とは、

- ① 観察して見つけたいいくつかの事柄の共通点に着目して、
- ② そこからルールや無理なく言えそうな結論を導き出す、論理展開の方法です。

これを聖書の学びに当てはめると、聖書の中のある言葉や出来事をより深く理解するために、

- ① 関連事項の書かれている聖句をいくつか読み、
- ② その言葉や出来事の意味を理解します。

つまり、**聖書を「聖書の辞書や辞典」のように使って読む方法**です。

ひとつ例をあげてみましょう。聖書の中で、「荒布をまとい、灰の中に座り、断食をする」という場面が時々出てきます。この行動の意味を理解するために、「荒布、灰、断食」という言葉の出てくる箇所をいくつか読んで比べてみます。すると、大体次の4つの意味が浮かび上がってきます。(参考にそれぞれの意味を示す聖書箇所を記しておきます。)

- 喪に服す： 創世記 37:31-35
- 悔い改め： 第一列王記 21:20-29
- 嘆き： エステル記 3:12-4:3
- とりなしの祈り： ダニエル書 9:1-5、19

もちろん、文脈から意味を推測することも出来ますが、いくつかの関連聖句を読み比べることで、より正確な意味をとらえることが出来ます。また、聖書の中から答えを出すので、聖書から外れることはありません。このような読み方を積み重ねて御言葉を理解していく学び方を、「帰納的学び方」と呼んでいます。

聖書を読んでいて分からないことにぶつかると、飛ばしたり、すぐに参考図書に頼ったりしがちですが、この学び方では、そういう思いをグッとこらえて、ひたすら聖書に向き合います。大切なことは、**聖書を私たちの「第一の参考図書」**にすることです。

## 帰納的に読むことで聖書から分かること

聖書は「聖書の辞書や辞典」と言いましたが、具体的に聖書から何が分かるかを説明します。聖書の 66 書はお互いに密接につながっているため、そのつながりを上手にたどると、つまり、参照聖句<sup>1</sup>を読むと、一箇所を読むだけでは理解できなかった言葉の意味がはっきりとしてきます。下記に主なものをまとめました。

- **言葉の意味**：「荒布をまとい、灰の中に座る」の様に、現代の日本では見られない行動や、私たちの普段の生活ではあまり馴染みのない言葉（神様との契約、買戻しの権利等）の意味も、調べられます。
- **時代背景**：例えば、ルツ記の時代背景は士師記から、エレミヤ書の時代背景は第二列王記や第二歴代誌から読み取れます。また、新約でも、使徒の働きに記録されているパウロの伝道旅行から、パウロと彼の手紙を受け取った教会との関係を推測出来ます。
- **地名**：「ソドムとゴモラ」のようにそこで起きた事柄を知ると、これらの町の名前が何の代名詞になっているかが理解できますし、地名によっては、名前の由来や歴史を知ることも出来ます。
- **人物、人間関係**：一番大切なことは、神様、イエス様、聖霊について理解することですが、このことに限らず、聖書に登場する様々な人物を知り、人間関係を推測することが出来ます。
- **預言とその成就**：神様が語られた預言が、いつどのように成就したか（イスラエルとユダの滅亡、捕囚の帰還、メシヤの誕生等）も、重要なポイントです。
- **旧約聖書内での引用と暗喩**（暗示的な内容）：神様が繰り返し語られる言葉（アブラハムとの契約、モーセの律法等）が、旧約の別の書にそのまま引用されていたり、暗示されていたりします。このことは特に、神様が預言者を通して語られた言葉の背景を知る上で、重要な手がかりとなります。
- **旧約聖書から新約聖書への引用と暗喩**：新約聖書には、旧約聖書からの引用や暗喩が数多く出てきます。イエス様もパウロも旧約聖書から引用して語っています。新約聖書は、①旧約聖書に書かれた預言の成就と②新たな契約と啓示ですから、それらのことを正しく示すために、旧約聖書から引用して説明したのです。また、初期の教会には、元ユダヤ人クリスチャンや、元々ユダヤ教を信じていた異邦人クリスチャンもたくさんいて、彼らは旧約聖書の内容をよく知っていました。ですから、これらの箇所を読むときには、引用された元の旧約の箇所を開き、その文脈を確認することが正しい理解につながります。また、暗喩の代表格と言えばヨハネの黙示録でしょう。旧約聖書からの暗喩が多く含まれたこの書は、旧約聖書をよく知っていた人々のみが理解出来る暗号文のようです。ヨハネの黙示録は今日の私たちにとって難解な書ですが、旧約聖書とのつながりを意識しながら読むことが理解の助けになります。
- **新約聖書内での類似箇所と暗喩**：福音書では、マタイ、マルコ、ルカが共観福音書と呼ばれ、共通する記述が多く見られます。この他には、同じ作者による書（パウロの書簡、ヨハネの福音書とヨハネの書簡）、山上の垂訓とヤコブ書の間でも、似た言葉遣いや内容が見られます。

<sup>1</sup> 参照聖句は聖書の脚注にまとめて書かれています。これ以外にも、コンコルダンスやインターネットの聖書用語検索サイト (tuins.ac.jp) や、スマートフォンの聖書アプリを使って、その言葉が使われている他の箇所を調べることが出来ます。

## 参考図書から分かること

聖書を辞書や辞典の様に読む帰納的方法でも、すべての情報を聖書から得られるわけではありません。このような分野では、参考図書をうまく使って学ぶことが御言葉の理解に役立ちます。

- **史実と年代、地理：** 聖書に書かれていない歴史的な出来事や年代は、聖書辞典、年表、地図等を参考にしてください。歴史的な出来事として役立つ知識は、旧約聖書と新約聖書の間 400 年に起きたことです。また、年代は歴史書や使徒の働きを読む時に役立ちます。地理も、聖書では地名だけが言及されていることが多く、その場所の歴史や移動距離を知るためには、聖書に付いている地図、地図に特化した参考図書、聖書辞典を参照してください。
- **人物：** 聖書に書かれていることは事実ですので、聖書に登場する人物が、聖書以外の書物に記録されていることがあります。聖書を熟読した後に、聖書辞典を参照すると良いでしょう。
- **宗教的、社会的な背景：** これらの情報も、聖書の中ですべて書かれているわけではないので、聖書辞典が役立ちます。例えば、パリサイ人とはどのような人たちなのか、コリントとはどのような街だったのかは、聖書辞典で簡単に調べる事ができ、イエス様の言葉やパウロの書簡の意味をより深く理解する手助けとなります。
- **原語の意味や言葉遊び：** 旧約聖書はヘブライ語とアラム語で書かれ、新約聖書はギリシャ語で書かれました。私たちが手にしている日本語の聖書は、これらの原語から翻訳されたものです。翻訳の過程で、日本語での確かな訳語がどうしても見つからないこともあり、元の原語の意味を狭めたり、日本語で分かるように違う表現にしたりします。例えば、ヘブライ語の『ヘセッド』は、新改訳聖書では、「真実(第二サムエル記 10:2)」、「忠実(第二歴代誌 32:32)」、「恵み(出エジプト記 34:6-7)」、「誠実(ホセ書ア 6:6)」と訳されています。聖書を帰納的に読むことで、原語の意味の範囲を掴むことができます。ただし、そのためには原語の辞書や英語のインターネットの検索サイト(bibclassic.org や biblehub.com)を使って、同じ原語が使われている聖書箇所を調べる必要があるため、英語や検索の仕方の知識がいります。これ以外には、言葉の音遊びもあります。例えばエレミヤ書 1:11 の「アーモンドの枝を見えています」というエレミヤの言葉に、神様が「あなたの見たとおりだ。わたしは自分の言葉を行おうとして見張っているのだ」といますが、これはヘブライ語の音が似ている「アーモンド」と「見張る」の音合せの遊びですが、日本語の聖書を読むだけでは、エレミヤがどうしてこのような答えをしたのか分かりません。(新共同訳では親切にこられる言葉のヘブライ語の発音を表記しています。)このような場合は、注解書で調べるか、原語をよく知る牧師に聞いて下さい。
- **ユダヤ的な事柄、習慣：** 最後にとっても重要なことが、私たちにあまり馴染みのない当時のユダヤ人の慣習を知ることです。聖書はクリスチャンの聖典ですが、同時に旧約聖書はユダヤ教徒の聖典であり、新約聖書でも福音書から使徒の働きの1章までに書かれている事柄は、旧約時代、つまりユダヤ教の影響下の出来事でした。ユダヤ教のカレンダー、お祭り、習慣等で、彼らにとって常識的なことは聖書の中にあまり書かれていません。(日本人にとって、家に入るとは靴を脱ぐこと、ご飯を食べるとは二本のお箸で食べることが常識で、特に一々書かないのと同じです。) 過ぎ越しの祭りとイエス様の最後の晩餐と十字架、ペンテコステとルツ記、プリムとエステル記等、参考図書を利用してユダヤ的なことを知ると、より深い意味を知ることが出来ます。

## どうしても分からないこと

私たちの教師であられる聖霊に祈り、聖書箇所を何回も読み、参照聖句も読み、参考図書を調べまくったとしても、分からないことはあります。そのような時は、申命記 29:29 を読んで下さい。

「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである。」(口語訳)

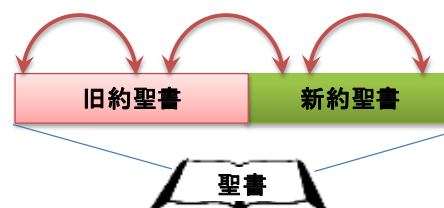
神様は私たちが知る必要のあることは示して下さい、私たちがそのことばを行うことを期待されています。私たちに明らかにして下さい、目に向け、神様に従って歩みましょう。

## まとめ

帰納的な学び方とは、

- ① 与えられた箇所を何回も読み、
- ② 参照聖句(コンコルダンスや検索サイト、アプリを利用)も読み、
- ③ 聖書を辞書や辞典のように使って、
- ④ 地図や年表も活用しながら、

出来るだけ聖書そのものからの情報で理解することです。



その後、疑問に思うことを参考図書で調べたり、牧師に質問したりして下さい。

聖書を「聖書の辞書や辞典」のようにして読むので、聖書的な正しい理解と解釈が可能になります。それに、聖書をしっかりと読んでおくと、礼拝の説教や注解書に書いていることが、自分でも驚くほどよく分かります。そして、何よりも素晴らしいことは、自分で真理を発見するので、御言葉を読むことが感動的で楽しく、しかも、学んだことを忘れません。このように学んでいくと、ふとした時に、聖書から学んだ真理が私たちに語り、私たちを導くという経験をします。聖書を学ぶことで、私たちが変えられていくのです。

「なんだか難しそう」と思われるかもしれませんが、実際にやってみると意外と楽しく出来ますので、「三つのステップ」を参考にぜひ試して下さい。